

1 題材 「災害リスクに備える～私たちが今できる準備と対策～」

2 教科論と本題材の関わり

本題材では、一次～三次において「知識・技能の必要性を実感する場」を設定する。一次では、台風10号に見舞われた際の福岡県の生活と宮崎県・静岡県生活を比較する場を設定し、どのような備えをすべきか検討する。二次では、災害時を想定して調理を行う場や防災グッズを使用する場を設定し、本当に必要な備えとは何かを批判的に検討し、再考する。三次では、防災センター職員の方へのマニュアルを提案する場を設定し、実生活にどのように生かせるかを確認する。これらの活動を通して、家庭科の学習から得られる知識・技能の必要性を実感し、自らの生活を批判的に考察し、必要な学習を推測し、実際に行動・分析をすることができ、「生活を問い直す力」を育むことに繋がる。

3 指導観

教材観・単元指導観	生徒観
<p>日本では毎年のように地震、津波、風水害、土砂災害等の自然災害が発生している。2024年1月には、能登半島地震が発生し、大きな被害を及ぼした。また、9月には豪雨も襲い、さらなる被害が起きている。今後は、南海トラフ地震等の巨大地震や警固断層地震の発生等も懸念されることから、自然災害対策の重要性は高まっている。</p> <p>本題材は、災害が起きた際の生活を想定し、必要な物を準備したり、技能を高めたりする活動を通して、災害時に適切な判断や行動をとることや必要な物を取捨選択できる力を育むことをねらいとする。そこで「災害時対応マニュアルを作成して、福岡の減災に貢献しよう！」という学習課題を提示する。災害時に生活する際に、何が必要かを検討し、準備する場や、何ができるようになるべきかを検討し、実践する場を設ける。実践する場を通して、災害に関する知識・技能を育むことができる点で、本題材は大変意義深い。</p>	<p>個人情報保護のため、 生徒観は省略しています。</p>

4 目標

- 健康、快適、安全、持続可能性の視点から災害時の生活を豊かにするために必要な知識及び技能を身に付ける。
- 自然災害に備えるために学校で避難生活を行う際に生じる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを表現するなどして課題解決する力を身に付ける。
- 自然災害に備えるため学校を避難所にする際の課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域で実践しようとする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>ア 健康・快適・安全や持続可能性の視点をふまえて、災害時の生活を豊かにするために、限られた道具や材料で調理する方法を身に付けている。</p> <p>イ 自然災害時の状況下において、生活に必要な知識・技能を身に付けている。</p>	<p>ウ 自然災害に備えるために学校で避難生活を行う際に生じる問題を見いだして課題を設定し、計画を立案している。</p> <p>エ 実践した結果を評価・改善し、「防災マニュアル」に表現し、課題を解決する力を身に付けている。</p>	<p>オ 自然災害に備えるため学校を避難所にする際の課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、家庭や地域で実践しようとしている。</p>

6 計 画 (12時間)

次	配時	学習活動・内容	主たる手だて (○)	評価
一	2	<p>1 災害時に備えた準備の必要性に気づく。 (1)～(2) 災害時の状況を想定した上で、どのような知識・技能を身につけていくべきか計画を立てる。 ・災害時の生活で困ること ・災害時に必要な物や知識・技能</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【題材を貫く問い】 限られた環境下で、健康・快適・安全な生活を送るためにはどうすべきか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【学習課題】 災害時対応マニュアルを作成して、福岡の減災に貢献しよう！</p> </div>	<p>○ 災害時に屋内がどのような状況に陥るかを把握させるために、家庭科室内の電気、ガス、水道を使用できない環境にし、この中でどのように生活するかと問う。 ○ 生きるために必要な物や知識・技能の必要性を実感させるために、災害時の死亡原因のデータや被災者の体験事例を提示する。 ○ 災害時の経験が少ないことを実感させるために、福岡県の災害状況を提示し、今までの自分の生活をふり返るよう促す。</p>	ウ
二	7	<p>2 避難時の生活に必要な技能を習得するためのシミュレーション学習を行い、災害時対応マニュアルにまとめる。 (1)～(3) シミュレーション学習を行い災害時対応マニュアルにまとめる。 ・防災グッズの利点・欠点 ・災害時に役立つライフハック (4) 実習計画を立てる。 ・災害時に役立つ食材や調理器具 ・災害時に実践可能な調理の方法 (5) 災害時を想定した調理実習を行う。 ・災害時の食事方法や調理方法の比較 (6)～(7) 災害時に必要な知識・技能を投稿にまとめる。 ・災害時本当に必要な物や知識・技能 ・準備すべき防災グッズの優先順位</p>	<p>○ 日常の生活と災害時の生活で考慮しなければならないことに気付かせるために、条件を指定した調理の場を設定する。 ○ 災害時に必要な調理の技能を批判的に検討させるために、班ごとに異なる調理実習を実践する場を設定する。 ○ 災害時を想定した際に、本当に必要な道具の条件に気付かせるために、様々な防災グッズを使用し、必要性を吟味する場を設定する。 ○ 家庭での災害時の備えの必要性に気付かせるために、現時点で行っていることと今後必要なことは何かと問う。</p>	アイ
三	3	<p>3 防災センターからの助言を受け、自らの生活を振り返る。 (1)～(2) GT (福岡市民防災センター職員) から災害時対応マニュアルに対する助言を受け、内容を再考する。 ・災害に備えて本当に必要なこと (3) 自らの家庭で実践すべきことを実践計画にまとめる。 ・災害時に備えて、自分にできること ・災害時に備えて、家庭で必要なこと</p>	<p>○ 題材を通して学んだことを実生活に活かすことの必要性に気付かせるために、マニュアルを見返しながら、自らの生活をふり返るよう促す。 ○ 作成したマニュアルと家庭で実践する内容を批判的に再検討させるために、「健康・快適・安全」・「持続可能性」の2つの視点を提示し、再考するよう促す。</p>	エオ

7 題材を終えた生徒の想定される姿

題材の学習を終えた生徒は、災害時を想定したシミュレーション学習で学んだことについて、「私の家では、災害時に備えて、防災バッグを準備したり、家具を固定したりという対策はとっていました。しかし、今回の題材の学習を通して、家で生活できなくなることや、電気や水道が使えなくなることを想定して準備をしておくこと、そのために、道具だけでなく、災害に備えた知識・技能が必要だということがわかり、身に付けることができました。万が一に備えて、これからも準備をしていき、自分や家族、友人、可能であれば地域の人も助けられるようになりたいです。」という旨の言葉を述べる姿を最終的なゴール像として設定し、総括的評価を行う。

8 公開本時についての補足

(1) 実施日

令和6年11月8日（金）4校時 二次の5 家庭科室にて

(2) 主眼

災害時にライフラインが止まった状況を想定した調理実習の実践を通して、災害時における食料の確保や調理の重要性に気づき、今後の生活でどのように備えるべきか説明することができる。

(3) 生徒の学習活動

学習活動	形態	配時
1 前時の調理計画をふり返り、本時の活動内容を確認する。 ・災害時に陥る状況 ・災害時の調理方法 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> めあて 災害時の調理方法を比較して、自分の生活に必要な備え方を探ろう！ </div>	一斉 ↓ 小集団	5
2 前時で計画した調理の実践から災害時に調理する際、重視すべきことを探る。 ・ポリ袋と水を用いた調理方法 ・缶詰を活用した調理方法 ・乾物やレトルト食品を活用した調理方法	小集団	30
3 各班の実践した調理を比較・評価し、今後の実生活への備え方を検討する。 ・自分の家庭において必要な備え方 ・災害時の調理方法の利点と欠点	個	15

(4) 主たる手だて

活動2・3において、災害時に必要な調理の技能や道具等を批判的に検討させるために、班ごとに異なる調理実習を実践する場とその実践を比較・評価する場を設定する。

(5) 想定される生徒の姿

[行動する姿] 活動2において、調理計画に沿って自らの役割をこなし、災害時の状況を明確に捉え調理に取り組む姿。

[省察する姿] 活動3において、自らの実践した調理方法と他者の調理方法を比較し、批判的に検討することでより実践的な調理方法を見いだそうとする姿。

[展望する姿] 活動3において、省察した内容をふまえ、自らの生活に必要な備えを見いだし、家庭で実践しようとする姿。

(6) 前時の流れ

①災害が発生した際の状況下で、どのように食事を摂るべきかを話し合う。

②どのような調理方法が災害時に適しているかを検討し、調理計画を立案する。

想定される調理方法や手順

- ・カセットコンロ等を用いた調理（炊飯、パスタ等）
- ・缶詰やレトルト食品等を活用した調理
- ・使い捨ての皿やラップ等を用いた準備、後片付けの簡略化

③「健康・快適・安全」の視点から調理計画を見直し、再考する。

- ・生きるために最低限必要な栄養素が摂取できるか
- ・手間をかけずに調理可能か
- ・安全に食事をするための工夫がされているか

④必要な準備物や手順を確認し、役割を分担する。